

令和2年羽島市長選挙 候補者アンケート

沢井 さちこ 氏 アンケートのご回答

1) NPO・市民活動団体について(200字以内)

現代社会では社会的課題が多様化し、課題解決のために様々なNPOなどの市民活動団体が活躍しており、羽島市でも市民活動団体登録がされています。NPO・市民活動団体に期待していることはありますか。あなたのお考えを聞かせてください。

市民が主体となって営利行為を目的とせず、社会貢献や慈善活動を行うことは意義のあることと思います。羽島市では保険・医療・福祉、まちづくり、子どもの健全活動などの分野で、現在20団体が幅広く活動、長年の活動で得られた経験やノウハウは貴重なもの。こうしたノウハウが地域に広がることで、ボランティア活動に市民の理解がさらに深まり、参加者が増えることにつながるものと思います。

2) NPO・市民活動団体の協働について(200字以内)

羽島市まちづくり基本条例では、第13条において「市民、議会及び市長等は、相互の役割と責務を認め合いながら、協力、連携してまちづくりに取り組むよう努めます。」と定めております。協働を推進するために羽島市にはどのような施策や仕組みが必要だと思いますか。

ますます多様化する現代社会にあって、行政では手の届きにくいところに、その地域に住んでボランティア活動する人たちの目が注がれることは、市民にとって大いに心強いものがあります。活動を続けていく上で、高齢者福祉や災害などで社会福祉協議会との住み分け、連携が課題と思われれます。そうした情報や課題を共有することも解決への有力な手立てと考えられ、その仕組みづくりも行政に課せられた役割ではないでしょうか。

3) 市民活動を活性化する施策について(200字以内)

羽島市の「市民協働によるまちづくり補助金」は2019年に役割を終えられましたが、今後の市民活動をさらに活性化する施策について、あなたの考えをお聞かせください。

ボランティア団体などを支援する市民活動団体登録制度は、まちづくり補助金のように活動資金の援助はなく、活動団体の組織化促進や団体間の連携、情報交流の機会提供に主眼がおかれています。団体間での情報交流、連携などによってレベルアップが図られ、活動がパワーアップする団体が多くなれば市全体に元気が出てくると思われます。市と団体間の絆がさらに太くなればと期待するところで

ご協力ありがとうございました。